

りつめい

題字・末川 博名誉総長

立命館大学校友会報

R Alumni

立命館大学校友会

NO.
254

2013
OCTOBER



Brilliance
輝くひと
86

日本一のさらなる先を目指して
社会人アメリカンフットボールチーム「オービックシーガルス」主将
古庄直樹さん（00産社）

巻頭集

Be Global!

国際化する立命館

03 巻頭特集

Be Global!

国際化する立命館



SPECIAL

01 輝くひと

古庄直樹 さん

08 RITSUMEI INTERVIEW

料亭「菊乃井」主人
村田吉弘さん



12 震災関連記事

東北三県校友会の支援の取り組み

立命館大学校友会東日本大震災復興支援金について

14 村上健治新校友会会長就任インタビュー

16 2015年4月、大阪いばらきキャンパス (OIC) が誕生

18 校友会未来人財育成基金

19 海の向こうの立命人

ASIA GATE HAI PHONG代表 豊田英司さん

20 経済学部同窓会による次代を担う人材育成への貢献

校友会・グループインフォメーション

漢字教育士資格認定講座が開設されました

立命館大学大学院入試説明会2013

22 校友会ネットワーク

24 学生イベント&スポーツ

26 キャンパストピックス

29 +Rな人

織田昌弘さん
佐々木 進さん



30 INFORMATION

31 編集室から

｜ 輝くひと ｜

社会人アメリカンフットボールチーム
『オービックシーガルズ』主将

こしょう なおき
古庄 直樹さん
(’00産社)



日本一のさらなる先を目指して

激しいプレーが魅力のアメリカンフットボール。屈強な男たちが集まるこのスポーツで、3年連続日本一の座を守る『オービックシーガルズ』を率いるのが、主将の古庄直樹さんだ。

競技を始めたのは高校生の時。パンサーズに憧れて立命館に進学し、3年生で学生王者を経験。オービックシーガルズでプレーして7年目の2007年、主将のバトンを受け取った。

優勝までの3年間、同じ舞台で、同じ相手に負け続けた。勝つために必要なものは何か。探し出した答えは「勝つから面白い」のではなく、「面白いから勝つ」ということ。「メンバーは、このチームで面白いことがやりたくて集まっている。それぞれがワクワクしながらプレーできれば、予想外の状況でもきっと勝てる」。そして「選手が主役でワクワクするチームづくり」を掲げた2010年、社会人決勝で、因縁のライバルを下し、頂点を勝ち取った。「『面白いから勝つ』を確信した瞬間でした」。

常に「自分にしかできないもの」を追い求めてきた。学生時代、大手企業の強豪チームから誘いを受けたが、自分らしくプレーできる環境を求めて別のチームを選んだ。より良い練習環境を求めて現在のチームに移ってからは、選手としての経験を生かせる柔道整復師を目指して、練習と仕事の傍らで勉強を続け、国家資格を取得。さらに鍼灸師の資格も取得し、今年春、接骨院を開業した。「『これでまあいいか』という選択だけはしてこなかった結果、『今が一番面白い』と思える人生になっている」。

強い意志を支えてきたのはパンサーズ時代の経験だ。「優勝候補と言われながら負けてしまった時には、かつてないほどに落ち込みました。でも、『どんなにやっても負ける時がある』と知ることができたのは自分にとって最大の財産。勝ち負けだけじゃない、すべての出来事が自分を成長させるためにあると気付くことができれば、日々強くなっていく」。8月末、シーズンが開幕した。「『今年のオービックは突き抜けている』と言われるようなプレーで、日本一を目指します」。

(写真・小幡豊 文・平松万知)

Be Global!

特集

国際化する立命館

国や地域を越えてつながる今日の社会で求められるのは

『グローバルな人』だと言われます。

立命館大学では、グローバル化する現代社会で活躍する人材の育成を目指して
様々なプロジェクトを進めてきました。

では、グローバルな人とはいったいどんな人のことを言うのでしょうか？

グローバルな力とは？

その答えは、プロジェクトに参加した学生一人ひとりの姿に表れています。

特集では、立命館の先進的な国際化プロジェクトの一端をご紹介します。



キャンパスアジア・プログラム

日中韓の学生が3カ国を巡ってともに暮らし、学ぶ

メンズファッションやアベノミクス、お土産の習慣……。衣笠キャンパスで実施された文学部の『キャンパスアジア・プログラム』の授業では、日本の文化等をテーマに日中韓の学生が研究発表を行ないました。学生たちはそれぞれのテーマについて、その文化的背景を説明したり、互いの国から見た意見を聞き合ったりして、バックグラウンドの異なる仲間から新しい視点を学び合います。「発表の授業が一番楽しい。準備のためにたくさん勉強するし、クラスメイトも手伝ってくれるので言葉も上達する。友達も増えた」と、プログラムで学ぶ謝潔娜さん（中国・広東外語外貿大2回生）は話します。

昨年より立命館大学文学部で始まった『キャンパスアジア・プログラム』は、立命館大学と中国の広東外語外貿大学、韓国の東西大学の3大学が共同で運営する国際プログラム。十数年来に及ぶ3カ国の大学の交流から、その実績が評価され、文部科学省の「平成23年度大学の世界展開力強化事業（日中韓のトライアングル交流事業）」に、立命館大学は日本の私立大学で唯一の拠点校として選ばれました。



日韓中連携講座 OB・OG同窓会を創立しました

2013年8月3日、キャンパスアジアの母体となった、韓国の東西大学校、中国の広東外語外貿大学と本学が共同開講する『日韓中連携講座』のOB・OG会の創立式が衣笠キャンパスで行なわれ、2003年度から2012年度の受講者18人と歴代担当教員が集いました。式終了後は、2013年度の受講者との懇親会を実施し、世代を超えた日韓中の学生達との交流が行なわれました。当同窓会は今後毎年実施を予定し、過去の受講者の皆様のさらなるご参加をお待ちしております。お問い合わせは、文学部事務室（075-465-8187）まで。



プログラムの特徴は3大学を巡って学ぶ「移動キャンパス」。それぞれの大学から選抜された約30名の学生（パイロット学生）が、3つの大学を巡って2年間学びます。これまでに中国、日本と移動してそれぞれのキャンパスで学んできた学生たちは、9月からは韓国で学んでいます。今後は中国、韓国でのインターンシップも経験するなど、移動キャンパスを中心とした専用授業を含め4年間のプログラムを履修し、語学力や人文学の専門知識、コミュニケーション力を身につけていきます。

政治的な問題からも目をそらさない

授業では、語学はもちろん、各国の文化や歴史についても掘り下げます。特に歴史学習では、日中韓の高校で使用されている歴史の教科書を用いて、それぞれの国でどのように歴史が学ばれているのか、互いの歴史認識を学びます。政治的な問題から目をそらすのではなく自らの問題として向き合い、相互理解を深めるのがねらいです。「領土問題や歴史というのはそれぞれの思いがあり、国ごとに捉え方が違うのがよく分かった。簡単には解決できないけれど、いつか良い方法がみつけれれば」と、丸山紗代さん（立命館大2回生）は授業を通した実感を話します。

プログラムの特筆すべき点は、学生たちが学校生活だけでなく日々の暮らしも共有しているということ。移動キャンパスの間、パイロット学生はシェアハウスや学生寮で共同生活をします。3カ国の学生たちは、一緒に暮らして初めて知る互いの生活習慣に驚いたり戸惑ったりしながらも、相手を理解しようと意思疎通に努めることで、単なる語学力で終わらないコミュニケーション力を獲得していきます。またそれと同時に、一生につながる友

情をも育んでいくことができるのです。金善敏さん（韓国・東西大2回生）は「生活習慣が国ごとに違うので、一緒に暮らしているとやはりぶつかる。でも、週に1度のミーティングでそれぞれ思っていることを話し合っ、お互いに納得できる方法を探すから大丈夫」と言います。

東アジアの次世代人文学リーダーに

プログラムが目指すのは「東アジア次世代人文学リーダー」の養成。日中韓の3カ国の言葉を自在に操れる語学力、各国の文化や社会、歴史、文学、思想などの人文学の専門知識、そして

▶パイロット学生のカリキュラム（日本人学生の場合）

1 回生		中国語・朝鮮語（韓国語）【基礎】 人文学の専門知識（文化・社会）
2 回生	キャンパス移動	中国語・朝鮮語（韓国語）【実践 1】 人文学の専門知識（歴史・文化・社会）
3 回生		中国語・朝鮮語（韓国語）【実践 2】 人文学の専門知識（歴史・文化・社会・文学・思想）
4 回生		中国語・朝鮮語（韓国語）【上級】、人文学の専門知識 卒業論文作成、海外インターンシップ、 リーダーズ・フォーラム

キャリア形成支援を通じたグローバル人材養成プログラム

グローバル企業での働き方を体得

「グローバル採用元年」と呼ばれる2010年、産学連携によるキャリア教育プログラム「キャリア形成支援を通じたグローバル人材養成プログラム」はスタートしました。同プログラムはもともと留学生を対象としていましたが、社会のニーズに応え、現在では国際的な活躍を志す日本人学生にも対象を広げて実施。将来の日本やアジアを担う「グローバル人材」の育成を目指して、グローバル社会で求められる資質や能力を磨く正課外のプログラムです。



海外での企業視察

総合大学ならではの多様性を活かして、理系と文系、学部と大学院、そして国籍を超えて学生たちが共に学ぶのが特徴。選考を経て、選抜され

異文化間のコミュニケーション力を身につけた人材です。それは単なるエリートという意味ではなく、どんな時代・環境の社会にあっても、文化背景の異なる相手と対話し、理解し合う方法を見出せるようなコミュニケーション力を持つ人を意味します。

「同じ国の出身でも一人ひとり考え方は違う。先入

観を持たずちゃんと話をして、相手がどんな考えを持っているのかを知りたいと思うようになった」と金さん。「このプログラムで培った目を将来は世界に向けてみたい」と謝さん。丸山さんは、「大変だなと思うこともあるけれど、それ以上にプログラムで学んで良かったと思うことの方が多い。卒業後は3カ国を移動しながらできる仕事に就きたい」と話し、プログラムを通して広がった視野でそれぞれの夢を描き始めています。



シェアハウスでの暮らし

監修：国際関係学部特別招聘教授
藪中三十二



た日本人学生と留学生、専門分野の異なる学生が入り混じってチームを組み、約7カ月のプログラムを同じチームで動くことで実社会をシミュレーションし、グローバル社会に必要な力を体得していきます。

衝突を通してスキルを培う

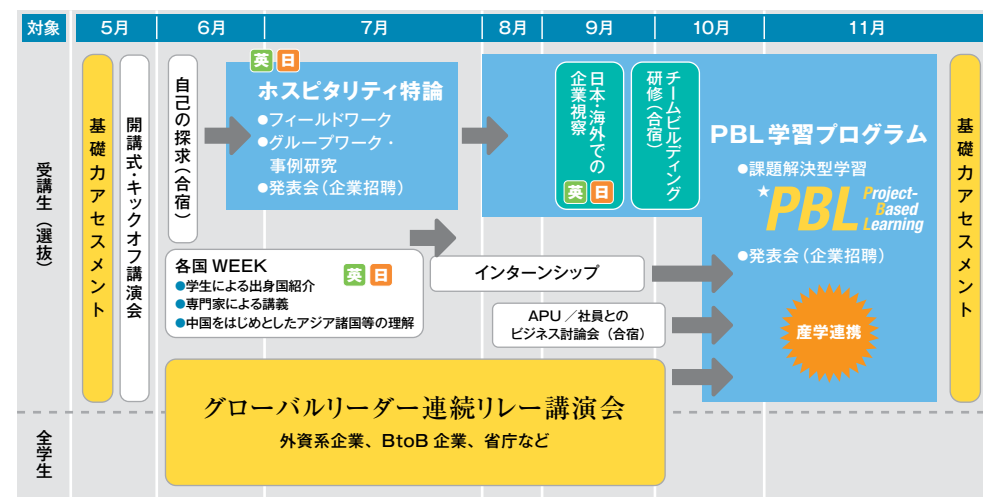
学生は、講義やフィールドワークを通して国際社会で注目される日本のホスピタリティを学んだり、企業でのインターンシップを経験したりするほか、「課題解決型学習＝PBL（Project-Based Learning）」にも取り組みます。多彩な内容のなかでも産学連携ならではの取り組みとして重点を置くPBLでは、グローバルに展開する企業が抱えている課題を提供してもらい、課題を認識するために日本人学生は海外で、外国人留学生は日本で、実際にグローバル企業の視察を行ないます。視察を通

して体感したグローバル化の現状をふまえて、課題に対する解決策をチームで協議し、導き出した解決策を多数の企業の前で発表・提案。議論では、価値観や文化の違いから学生たちの間にはしばしば衝突が起こりますが、その中で自らの意見を論理的に伝える力や、問題解決力、組織運営力などが培われていくのです。学生からの提案を実際に取り入れてみようという企業もあり、学生と企業双方にメリットをもたらす仕組みであることを示しています。

企業にとっても新鮮な学生の発想

これまでの学びをふまえて考察したホスピタリティの新たな価値や今後の展開について、先日、プログラムに参加する学生たちが一般参加者の前で発表を行ないました。「ホスピタリティはもはや日本独自のものではない。けれど日本のホスピタリティは、他の国や文化におけるホスピタリティを見つけるカギになっている」と、学生が見出した新しい価値観に、集まった出席者は興味深く耳を傾けていました。発表終了後、「意見の対立もあって、結論をまとめるまでは本当に大変だった。でも多文化の仲間との話し合いから今まで気がつかなかった日本の文化に気づくことができ、とても新鮮な経験だった」と学生たちは充実した表情を見せ、出席していた企業関係者からは「こんなプログラムがあることをうらやましく思う。今日チームで出した答えを、ぜひ実践してほしい」と声が上がりました。野中俊秀さん（理工学研究科1回生）は「多文化のチームで何かに取り組むのは初めての経験だったけど、国が違って本質的にはみな同じ。自分がまっすぐ向き合えば、相手もまっすぐ返してくれるんだと思った」。柳夢卓さん（経営3回生）は「日本で働く時に一番必要な

▶2013年度プログラム構想



のはチームワークだと思う。お互いに尊重し合いながら自分の意見もしっかり伝えられる人になって、将来は日本で働きたい」、河村優衣さん（法3回生）は「自分の価値観を押し付けないことが大事だと学んだ。私たちのチームが考える『グローバルな人』は、『国境を越えて人と人とをつなげることができる人』。心でつながってお互いのことを考え合うようにしていきたい」と話します。

摩擦や葛藤を通して、学生たちは自国の文化における「当たり前」が他の文化においてはそうではないと認識を深め、プログラムが終わる頃には互いを受け入れ合う心が生まれています。プログラムに参加した学生には、社会に出た際の目標を明確に持ち、主体的に物事に関わるようになるといった成長が見られ、プログラム修了生においては非常に高い進路決定率を誇っています。



立命館の学びを世界へ



2013年9月、立命館大学は、中国・大連理工大学と共同で、IT系の新学部である「大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部」を大連理工大学内に開設しました。日中の大学による学部の共同設立は初。新学部の教育内容は、立命館大学情報理工学部のカリキュラムを基本とし、授業全体の約3分の1を立命館大学の教員が中国に赴いて日本語で行ないます。また、入学定員100名のうち40名は3年次に立命館大学情報理工学部へ転入学し、4年間で両大学の学位を取得することができます。

また立命館大学では、ベトナム・ハノイ工科大学において「ベトナムIT高等教育人材育成プログラム（HEDSPI）」を、2006年よりJICAからの受託事業として慶應義塾大学と共同で実施してきました。本プログラムは、ベトナムのIT化をリードする高度なIT人材を養成し、ベトナムと日本両国の発展に寄与することを目的としており、2年半の基礎教育と日本語教育の課程修了後、毎年120名余りから選抜された10名が立命館大学情報理工学部で学び、学位を取得しています。

いずれの取り組みも立命館の教育のノウハウを生かして、日本との架け橋となる人材の育成を目指しています。

「ベトナムIT高等教育人材育成プログラム」卒業生の声

プログラムで得た知識と経験生かして起業。 ベトナムと日本、世界をつなぎたい

卒業後、HEDSPIと一緒に学んだ仲間と、スマートフォンアプリやウェブサービスなどのソフトウェア開発を行なう『Rikkeisoft』社を立ち上げました。社名は設立メンバーの日本の母校にちなんだもので、現在50名が働いています。

ハノイ工科大学では、私が入学した当時、ドイツやアメリカ、フランスなどとの間でもHEDSPIと類似の留学プログラムを実施していました。私は、ベトナムと同じアジアの国である日本がなぜこんなに発展したのかが知りたくて、HEDSPIへの入学を希望しました。

HEDSPIでは先生と学生との距離が近く、気軽に質問することができ、特に日本語教育は非常に優れていました。語学力やIT技術の専門知識を身につけることができただけでなく、日本人の仕事観やビジネスマナーなど日本の文化についても学ぶことができました。取引先の100%が日本企業という現在の仕事で、プログラムで得た知識や経験は、お客様との信頼関係を築くのに大いに役に立っています。

プログラム出身者の多くは、プロジェクトマネージャーやブリッジエンジニア、日本企業のベトナム法人のリーダーなどを目指し

て頑張っているようです。私の同級生も日本で就職したり、ベトナムの日本企業に就職したりしており、Rikkeisoftでも社員の半数がプログラムの出身者です。

会社設立から1年、仕事量に波はありますが、後輩のエンジニアたちが楽しく働く姿を見ると、どんなに疲れていてもうれしくて、もっと仕事がしたいという気持ちになります。さらに会社を發展させて雇用を増やし、ベトナムに貢献したいと思っています。

学生時代には「いつかベトナムを変えたい」と思っていました。かつてイギリスとフランスの学会に行くチャンスがあったのですが、ビザの関係で結局私はフランスしか行けませんでした。日本人の友達は、ビザなしでどちらも行くことができます。それは世界における日本の位置付けの高さの表れだと思います。いつかベトナム人も、日本人のようにビザなしでいろんな国に行けるように、私はRikkeisoftの評価を高めることで、ベトナム全体の評価を高めることにつなげていきたいです。

これからは、日本だけでなく、アメリカやシンガポールなど世界で事業を広げていきたいと考えています。世界に向けてサービスを発信し、「ベトナムも強い国ですよ」と伝えたいですね。

Ta Son Tungさん（11情理）
Rikkeisoft代表



伝統とは革新していくこと。 日本料理の世界を革新していく一人でありたい

料亭『菊乃井』主人

村田 吉弘 さん（74産社）



地球上で唯一の「うま味」の文化

昨年、星の数でレストランの評価を表す『ミシュランガイド』で、最高点の三ツ星を獲得した本店を含め、3店で7個の星を獲得した京都の料亭『菊乃井』。世界の美食家が注目するこの料亭の三代目主人が村田吉弘さんだ。メディアへの出演も数多く、親しみやすい語り口と、明確で手間を省いた調理法で、お茶の間

と日本料理の距離をぐっと近づけてきた。その一方で、日本料理を世界に広めようと精力的に活動している。

村田 世界中のすべての料理は油脂を中心に構成されていますが、唯一、うま味成分を中心に構成されているのが日本料理。そんな日本料理の基となるのが“だし”です。だしにはカロリーがほとんどない。油脂をまったく使わずに仕立てる懐石料理は、65品目あって1000kcal。フランス料理やイタリア料理の約3倍の品目が摂取できて、カロリーは半分以下。驚異的な食事形態を作っているのです。

今、海外では日本料理に関心を持つ人がどんどん増え、その調理法や素材へのアプローチの仕方を学ぼうと、海外のトップシェフが日本に研修に来ています。うま味を作るのはイノシン酸とグルタミン酸。それが出来れば、素にするのは昆布や鰹節でなくてもいい。大事なのはうま味の文化を伝えること。人類にとって役に立つこのような調理法を次代に残さなければなりません。

「世界の日本料理」に

老舗の跡取りとして育てられた村田さん。けれど日本料理の道に入るべき人間だと気付いたのは、意外にもフランスでフランス料理を学んだ経験だったという。

村田 3回生になると周りが就職活動を始めます。僕は料理人にはなりたかったけれど、子どもの頃からずっと馴染んできた日本料理はあまりにも身近すぎて、それに加えて先代の父に対する反発もあって、フランス料理のシェフを目指そうと決めました。その決意を父に話したら泣いてすがってくれると思ったのに、「フランス料理がやりたかったら、さっさとフランスに行け」と返ってきた（笑）。僕はフランスに行くつもりなんて全然なかったのに、すぐに現地で修業することになってしまいました。

日本にいる時には「世界の三大料理はフランス料理、中華料理、そして日本料理」と聞いていたのに、フランスに行ってみるとフランス人は日本料理のことなんて何も知らない。「極東のエスニック料理」にすぎないのだと思い知らされました。ある時、フランス人に「フランス料理は世界一の料理だから、しっかり学んで帰って自国の役に立て」と言われて、「日本料理には、フランス料理にひけをとらない文化的クオリティをもった『懐石』というものがある」と反論したのです。すると「そんなに一生懸命日本料理のことを考えているなら、日本料理を勉強すればいいじゃないか」

と言われて自分の矛盾に気が付いた。フランスに行って、自分が日本人であることを思い出したんですね。

フランス料理には『鴨のオレンジソース』という定番メニューがありますが、僕はずっと「果物のソースで食べるなんて気持ち悪い」と思っていました。でも、食べてみたらこれがおしくて。素材に対していろんな偏見を持っているのに気付きました。こんなことではまだ知らないことがどれだけあるのだろうと思って、北から南までヨーロッパ中をくまなく周ったのです。そうすると、日本料理にないものを知ると同時に、日本料理の素晴らしさがよく分かった。自分の一生をかけて、日本料理を「世界の日本料理」にしようと思いました。

自国の文化にもっと自信を

帰国して日本料理の道に進み、名古屋の料亭や実家で研鑽を積んだ後、菊乃井木屋町店を開店。1993年、菊乃井主人となる。2004年には、世界の料理人との交流や食育活動などに取り組むNPO法人『日本料理アカデミー』を発足し、理事長に就任。日本料理を世界に広めるため々と取り組みを進めてきた。日本料理の正統を受け継ぐ料理人として知られる村田さんは、新しい素材や調理法を恐れることなく取り入れる。驚くほど柔軟なその姿勢は、日本料理への強い誇りと自信に裏打ちされている。

村田 世界と交流する中で感じるのが、日本人はフェアでない考え方をしがちだということ。「四季の情感を料理に盛り込む」「素材の持ち味を大切に使う」。それが日本料理の特徴だと、日本人は胸を張って言うでしょう。けれど、四季のある国で日本人と同じような文化水準を持ちながら、それを料理に反映しない民族がいるのでしょうか。四季の情感とは何か、素材を生かした調理法とはどんなものか、それは国によって違います。日本人なら「新鮮な海の幸は刺身

や塩焼きが一番」と考えますが、フランスの港町マルセイユでは新鮮だからこそブイヤベース（海の幸のスープ）にする。自分の文化の感覚でしかものを見ようとしないのであれば、「極東のエスニカン」の域を出ることはできません。

料理とは、その文字のごとく「理を^{はか}り定める」もの。まずは料理を作る相手、「人」について考える。90歳のおばあちゃんのための料理と5歳の男の子のための料理はまったく違うものになる。同じ日本人に対してもそういうことを考えなければ、料理人として失格です。それなのに、異文化を背景に持つ人に対して「これが理解できなかったら日本料理が分かったとは言えない」などという姿勢は、料理人としてどうなのでしょう。料理は相手が理解できるようにしてあげないと意味がないのです。

しょう油や味噌といった日本の調味料や食材は、健康志向の高まりから海外でその消費量が増える一方で、国内では減少しています。日本の食料自給率は現在約40%。このまま何も手を打たなければ、日本の食は今後どうなっていくのでしょうか。僕は世界各国を訪れていますが、野菜や果物、米など第一次生産物は日本のものが世界一。海外の料理人に日本のイチゴを食べさせたら「こんなに甘くて香り高いイチゴは食べたことがない!」と驚いていました。日本人は日本という国、その文化の素晴らしさに早く気付かなければならない。世界はもう気付いています。自国の文化に自信と誇りを持ち、それを守るためにどうすべきなのか、僕たち一人ひとりが考えなくてはいいけません。



（写真提供：日本料理アカデミー）

世界無形文化遺産の登録を目指して

日本料理という文化を次の世代に継承する。その情熱で国を動かし、2012年、「日本の伝統的な食文化」がユネスコ（国連教育科学文化機関）の世界無形文化遺産の登録に政府から提案された。今秋その結論が出される予定だ。

村田 東日本大震災のすぐ後に、韓国が「宮廷料理」の無形文化遺産への登録を提案しました。日本中が落ち込んでいる時に、このままではますます自信をなくしてしまうと思ったのです。府に嘆願書を出して政府に働きかけ、異例の速さで提案にこぎつけることができました。

文化の衰退を防ぐためにはシステムが必要です。文化遺産の登録に提案することによって、その体制を整備することができる。今、登録に向けて京都府立大学に日本料理の学部と大学院を設立しようとしています。それはこの先、いろんな切り口から料理を追究する研究者が生まれ、日本料理という文化が継承されていくということです。日本料理アカデミーでは、京都大学と連携して日本料理の可能性を探る研究を進め、料理を科学的に検証することができました。「料理は勘や経験」と昔は言っていましたが、それでは料理の裾野が狭まるばかりです。一子相伝すべきは料理に対する心構え。たとえ秘伝のレシピでも、ちゃんと分析しておけばいつでも再現できるし、再現できないようならば、それは料理人とは言えません。

日本料理の道を目指す人は激減しています。日本料理の世界で名を上げてくるのは何代目かの御曹司。歌舞伎と同じような体質を作っているのです。それは全体のスキルが落ちる最大の原因。この状況を変えようと、アカデミーでは日本料理の検定制度を作ろうと考えています。実技や筆記で能力を点数化し、それに準じた給与形態が確立されれば、どこに行っても実力が正当に評価される。そうすれば若い人にも上るべき階段が見える。京都だけに優れた料理

人が集まって、「旨い日本料理は京都にしかない」という風になっていくのは幸せなことではありません。あそこにと、評判の料理屋が日本中に散らばってこそ、日本料理全体のスキルが上がっていくのです。

アカデミーではさらに、日本料理を集大成した教科書のようなものも作っています。それは日本料理を標準化すること。標準化することとは、すごい勢いで伸びて、すごい勢いで落ちるということです。フランス料理ではエスコフィエという料理人がこれを進め、いったん伸び切ると落ちました。けれど落ちた後には新しいことを考える若いシェフが出てきて、今また伸びてきている。標準化すれば、日本料理にもその危険性があります。けれど世界の料理になろうと思ったら、やらないわけにはいきません。

世の中に善きことをする

気さくで豪快。自由な精神で国や文化の壁を軽く飛び越え、世界を結ぶ村田さん。違いを楽しむその心は、学生時代の経験に育まれたと振り返る。

村田 「あほぼん」やった僕は本当にお気楽な学生で、冬はスキー場、夏は海辺で丸1カ月過ごして、春と秋はゴルフ（笑）。それでいて民青（民主青年同盟）とはどういう考え方なのかと興味を持ったり。遊ぶことに熱中していましたが、学生時代の経験は全部今でも役に立っています。僕ら付属校出身者は、同じような環境で育った子が集まっていて、考え方もある程度均一化されていました。ところが大学に行ったら十人十色。いろんな考えの人間に出会って、「話せば違う発想が出てくるのだから、できるだけいろんな考えの人間と一緒にいる方がいい」ということが分かりました。それと、一人で何かを強く思ってコツコツやっている人間がいると、必ず共鳴してくる人間が出てきて、それが複数になると一つの力になるということも。それは、ど

うすれば社会が動くのかということにつながっています。自分が追うことによってものが動くというのは、ある意味で言えば革命です。僕は革命を起こそうとは思っていないけれど、料理人になると決めたときからずっと変わらぬ思いがある。「世の中に善きことをする」、この思い一つです。

Profile



Yoshihiro Murata

1970年	立命館高校 卒業
	立命館大学産業社会学部 入学
1974年	同 卒業
	大学在学中にフランス料理を学ぶため渡仏。帰国後、日本料理料理人として修業を重ねる。
1976年	菊乃井木屋町店を開店
1993年	料亭『菊乃井』主人、株式会社菊乃井代表取締役
2004年	『日本料理アカデミー』を設立、理事長に就任
2013年	日本の食文化の振興と魅力発信を目指す『全日本・食学会』を発足、団長に就任 現在に至る
受賞歴	
2012年	平成24年度卓越した技能者（『現代の名工』） 平成24年度京都府産業功労者賞
2013年	第31回京都府文化賞功労賞

東北三県校友会の支援の取り組み

岩手、宮城、福島。東日本大震災で大きな被害を受けた3県の校友会では、震災後、被災された校友への支援活動を続けてきました。これまでの、そしてこれからの支援の取り組みについて、各県校友会の会長にその思いをお聞きしました。

岩手県

菊池 宏 会長（'65文）Kou Kikuchi

被災された校友の訪問活動これからも



これまで3回にわたって被災された校友のお宅を訪問し、全国の校友の皆様からの義援金を直接お届けして、震災時の状況や現在の生活のこと、将来のことなど、じっくりお話を伺ってきました。被災された校友は、「卒業して何年も経つの、このような激励をいただいて」と、感謝・感激されていました。母校の学生や職員、校友のボランティア活動の様子が地元のテレビや新聞で報道されるたびに元気が出たと言い、不便な暮らしでも不満を言わず、地域の人と積極的に交流し、高台住宅地の完成を心待ちにされています。けれど、工事が遅々として進まず、その間に被災地を離れる人が増える状況を見るにつけ、終の住居の決定に迷い悩んでおられるようでもあります。今年8月5～7日にも全壊流失した校友宅を訪ね、ご焼香をしたり、近況を伺ったりしてきました。被災校友を忘れることなく、支援できることに感謝し、今後もできるかぎり訪問活動を続けていきたいと思っています。改めて校友の皆様には感謝を申し上げ、これからのご協力もよろしくお願いいたします。

宮城県

下村 泰雄 会長（'61法）Yasuo Shimomura

大切なのは従来 of 活動を続けること

震災では被害の差はあっても誰もが被災者。みんなが大変でした。震災から2カ月が経過して、ようやく幹事役員の安否確認ができ、すぐに幹事長と甚大な被害を受けた校友を訪問しました。宮城県校友会では、2011年度は予定を大きく変更し、総会を『杜の都全日本大学女子駅伝』に合わせて開催。2012年度は、校友会復興支援企画等への参画や新潟の校友大会への参加、また大学女子駅伝での立命館大学女子陸上競技部の連覇などが大きな励みとなりました。今年度は35回という節目の総会を、震災前の活動を早く取り戻せるようにと工夫を凝らした企画で開催しました。何よりも全国の校友の皆様や学園からの温かいご支援に勇気と希望をもらい、母校との絆を強く感じられたことに、深く感謝しています。振り返ってみると、校友会活動そのものが宮城県校友会としての復旧・復興の支援活動であったと思います。これからも、これまで続けてきた活動を存続させ、校友相互の交流と親睦を深めることで、震災を乗り越えられると信じています。

福島県

桑原 勇健 会長（'69理工）Yuken Kuwahara

全国校友に感謝



福島県では、今でも故郷へ帰ることができない校友が大勢いらっしゃると思います。そんな中で、全国の校友の皆様より温かい支援をいただき、心より感謝申し上げます。今年出産された校友からは、「校友の皆様のお気持ちに感謝し、風評被害や困難に負けず頑張ってます。我が子も福島県人として誇りを持ち、様々な問題を乗り越えられるように育てていきたい」と、福島県校友会馬場幸蔵副会長からは、「現地を知らなければ語り得ないことが、いまだ我々の暮らしのすぐそばにあります。忘れられること、それは被災地にとって最大の被害です。福島県が元の『うつくしま・ふくしま』を取り戻すまで、知る努力を惜しまないことが、最大の支援と願っております」と、メッセージを頂きました。今後の福島県校友会としては、一人でも多くの校友に呼び掛け、共に全国の校友と懇親を図り、母校の発展に寄与し、立命館校友である事に誇りを持つ活動にしたいと思っています。それが支援への恩返しです。「未来を信じ、未来に生きる」の精神で、一日も早く笑顔で暮らせる日々を願っています。

立命館大学校友会東日本大震災復興支援金について

2013年6月1日～8月31日に以下の皆様方から復興支援金・義援金をお寄せいただきました。ご協力いただきました皆様に心よりお礼を申し上げます。

● 個人（卒業年・50音順）※敬称略



個人情報保護のため、PDFではご協力いただいたみなさまのお名前を非表示としています。

※卒業年、学部・研究科名は、校友会に登録されている情報に基づき記載しています。なお複数の学部・研究科を卒業・修了されている場合は、最終歴を記載しています。

合計 14,837,718円 2013年8月31日現在（復興支援金 1,908,904円 義援金 12,928,814円）

復興支援金募集

復興支援特別委員会は今後の復興支援事業のあり方について東北三県（岩手県、宮城県、福島県）校友会と協議し、被災地校友会による復興に向けた取り組みのサポートを目的とした「復興支援金」の募集をあらたに開始いたしました。現地校友会による復興活動を応援するために、引き続き校友の皆さまのご支援・ご協力を宜しく願いたします。

■ 受付方法

募集の期間や口数・金額等は定めておりません。

<個人>

振込み手続きの際には、振込み人名の欄に、氏名、卒業年、学部名を記入（入力）してください。

例：「リツメイ タロウ S56 ケイザイ」

学部名の記入（入力）は、以下のとおりとしてください。

法学部＝ホウ	経済学部＝ケイザイ
経営学部＝ケイエイ	産業社会学部＝サン
国際関係学部＝コク	文学部＝ブン
政策科学部＝セイサ	映像＝エイゾウ
理工学部＝リコウ	情報理工学部＝ジョウリ

<団体・グループ>

振込み手続きの際には、振込み人名の欄に、団体・グループ名を記入（入力）してください。

■ 芳名の公表

ご協力いただいた個人、団体・グループについては、芳名を、会報「リつめい」に掲載させていただきます。匿名を希望される場合は、振込み手続きの際、振込み人名の欄に、氏名とともに「トクメイ」と記入（入力）してください。

例：「リツメイ タロウ トクメイ」

なお、この復興支援金募集に関わって、本会では領収証等の発行は行ないません。予めご了承ください。ご不明な点がございましたら、立命館大学校友会事務局（フリーダイヤル0120-252-094）までご連絡ください。

■ 受付口座

【受付口座1】京都銀行：二条駅前支店

（普）1046732（銀行コード0158：店番コード129）

口座名義 立命館大学校友会復興支援金口

同行本・支店間での振込みの場合、窓口・ATMともに振込手数料は無料となります。

【受付口座2】京都中央信用金庫：三条支店

（普）1206103（銀行コード1611：店番コード006）

口座名義 立命館大学校友会復興支援金口

同金庫本・支店間での窓口利用振込の場合「義援金の振込である旨」お申し出いただくことにより手数料が無料となります。但し、窓口以外の振込（インターネットやATM等）の場合は手数料が発生します。

【受付口座3】みずほ銀行：京都中央支店

（普）2405688（銀行コード0001：店番コード473）

口座名義 立命館大学校友会復興支援金口

同行本支店間・みずほコーポレート銀行本支店からの振込みの場合、窓口・ATMともに振込手数料は無料となります。

【受付口座4】

ゆうちょ銀行口座間の振替、窓口備え付けの「払込取扱票」をご利用の場合は以下へお願いいたします。

口座記号・口座番号 00950-8-164788

口座名義（加入者名） 立命館大学校友会

※誠に恐れ入りますが、振込手数料についてはご負担をお願いいたします。

他行からの振込の場合は以下へお願いいたします。

ゆうちょ銀行：〇九九店（当）164788

（銀行コード：9900 店番コード：099）

口座名義 立命館大学校友会

※誠に恐れ入りますが、振込手数料についてはご負担をお願いいたします。

※校友（個人）へのお見舞金とすることを目的とした「義援金」の受け付けは2013年7月31日をもって終了いたしました。

村上健治新校友会会長就任インタビュー

全国の校友の後輩・母校への想いを一つに

このたび、9年間にわたって卓越したリーダーシップで校友会を率いてこられた山中諄氏（'65経済）が会長を退任されました。山中氏からそのバトンを託されたのは村上健治氏（'70産社：ダイワラクダ工業株式会社 代表取締役会長）。新会長のもと始動する新たな校友会はどのような発展をみせるのか、村上会長に目指す校友会像についてお聞きしました。



村上健治 Kenji MURAKAMI

ダイワラクダ工業株式会社 代表取締役会長

愛媛県出身。1970年立命館大学産業社会学部卒業後、大和ハウス工業株式会社入社。2004年同社代表取締役社長。2011年同社代表取締役副会長。2012年より現職。2005年より立命館大学校友会副会長、立命館大学大阪校友会会長を務め、2013年6月校友会会長に就任。学校法人立命館理事も務める。

ゴルフやスポーツ観戦、旅行と多趣味だが、ダイワハウス社長就任時からの趣味に写真がある。『「いい景色を早く見せてあげたい」』記念に残る1枚を撮ってあげたい』と、誰かを喜ばせたいという思いで撮るだけで、技術があるわけではないのです」と話すが、撮影した風景写真が住宅業界誌の表紙も飾るというプロ顔負けの腕前。その作品の多くが、一眼レフではなくいつも持ち歩いているコンパクトカメラで撮影されたものというから驚きだ。作品は周囲からも好評で、「その写真をもらえないか」と頼まれることもしばしば。「贈った相手が喜んでくれればうれしいし、そこからまたいろんな交流が生まれる。それが楽しみでもあります」。

Profile

就任にあたってのお気持ちをお聞かせください。

32万人を超える校友をつなぐ立命館大学校友会。これまでその素晴らしい手腕で会を活性化されてきた山中前会長から大役を引き継ぎ、身の引き締まるような思いです。けれど大学の発展を願う気持ちでは誰にも負けません。私なりに精一杯、熱き心でやっていきたいと思っています。

校友会と大学は車の両輪。学生が様々な分野で活躍し、大学の評価が上がるのは、校友にとって非常にうれしいことであり、誇りでもあります。一方で、校友が全国各地で活躍している姿は、学生にとっても励みになる。そんな風に、校友と学生は切磋琢磨しながら互いに発展を願う関係だと思います。都道府県や海外のほか、クラブやゼミと数多くの校友会がありますが、私はその一つひとつの後輩や母校への想いを一つにし、強くしていきたいと考えています。

現在の立命館の姿をご覧になって思うことは？

これまで立命館は積極果敢に改革をし、評価を得てきました。多少の功罪はあるでしょうが、その改革精神なくしては現在までの発展に至っていなかったと思います。少子化や、東京一極集中という傾向が現れている今、大学を取り巻く環境は非常に厳しいものになっています。そんな時代にあって、立命館は持ち前の改革精神から、新しいキャンパスを大阪・茨木市に開校するという選択をしました。将来を見据えた立命館ならではのこの選択を、私たち校友会もしっかりと応援していきたいと思っています。

今の立命館大学は、私が学生だった当時を思うと様変わりといった感があります。女子学生が増えて華やかになり、なにより学力もずいぶん上がりました。各分野で評価が高く、良い発展をしているなど率直に思います。「心豊かにたくましい」が立命館の校風だと思っていますが、学生にはそんな気質をしっかりと持ち続けて、挑戦することを恐れず自分を高めていってほしいですね。

これからの校友会はどうあるべきとお考えでしょうか。

近年、地域活性化の意味も込めて地方での校友大会を隔年で開催しています。そういった取り組みからエリア内での結束も高めていきたい。女性や若手の校友の活性化は校友会の最も重要なテーマです。新しい取り組みを試みている団体も出てきているので、良い部分を参考にしてさらに発展できればと思っています。これまで私が会長を務めた大阪校友会の新しい会長も女性です。他の校友会にとっても刺激となるような、女性ならではのパワーを発揮してもらえるといいですね。

出会った方がふとしたことから校友だと分かったと、それまで以上に強いつながりになるのには日々感動しています。やはり同じ大学で学んだということで、どこか親しみが増すという部分があるのでしょう。仕事を通じて校友の方にお会いすることもよくありますが、話をしてみると若い方でも立命館出身の方はとてもしっかりしている。これからが楽しみだと思う方が多いのです。10年後にはそんな方がさらに増えるだろうと期待しています。

立命館ではどんな学生時代を過ごされたのでしょうか。

私が学生だった頃は学生運動が非常に激しく、落ち着いて勉強ができる環境ではありませんでした。けれど本だけはそれなりに読んでいて、特に愛読した山本周五郎は、私の人格形成に大きく影響していると思います。歴史ある京都は見どころも多く、学生に優しい町。ほどよい田舎らしさが残り、良い場所で学生時代を過ごせたなと思います。

私にとっての人生の転機は学生時代に訪れました。それは、ダイワハウスへの就職が決まった直後に元気だった父親が心筋梗塞で突然亡くなったこと、そしてその1カ月後に私自身が大きな交通事故に遭ったことです。生死をさまよって目が覚めた時、付き添っていた母親は青ざめて震えていました。その様子を見て、「私がしっかり一家を支えなくてはいけない」と人生への気構えができました。また、父が生前私のために就職祈願をしてくれていたことを後になって母から教わり、若いうちに親の愛情に気づくことができました。これらの出来事が、人生とは自分の力で切り開いていくものだと、私を導いてくれたと思います。社会に出てからも厳しい目に何度も遭いました

が、どんな時も逃げずに闘ってきました。それは、父の愛情が心の支えになっていたのに加えて、学生時代の自由な学びの中で、反骨精神のようなものが私の中に培われていたからかもしれません。



◆ 6月に行なわれた幹事会での会長就任挨拶

校友会の魅力とは？

私も母校への愛情が昔から強かったわけではありません。各地を転動している間に、立命館出身の先輩方にいろんなところでお力添えをいただくなかで「母校を通じて同じ気持ちを共有できるのはいいものだな」と思うようになりました。一人で闘っている時期もありましたが、先輩のアドバイスに励まされたり、人生の深みを知ったり、ありがたく感じる事が何度もありました。校友会では様々な出会いがあります。時には、人生観に影響を与えてくれるような出会いも。世代の違う方と接するのは苦手という方もいるでしょうが、一度参加してみれば、「同じ学び舎で、同じ校歌を歌った」というつながりを持つ者同士触れ合うのはいいものだと思うはずです。ちょっと癒しが必要な時や、仕事でパワーアップしたい時、気軽に校友会を訪ねてみてはいかがでしょうか。素敵な校友の仲間に出会えば、さらに世界が広がりますよ。



◆ 各地で開催する校友大会。昨年度は新潟で

2015年4月、大阪いばらきキャンパス(OIC)が誕生

2015年4月より、経営学部・経営学研究科、政策科学部・政策科学研究科、テクノロジー・マネジメント研究科、経営管理研究科が新しい学び舎に拠点を移し、更なる教育・研究の質向上に取り組みます。

＊テクノロジー・マネジメント研究科、経営管理研究科は、2015年4月以降も既存キャンパスにおける一部科目の開講を検討しています。 ＊2016年4月に心理総合系新学部の開設を検討しています。

新キャンパスゾーニング



新キャンパスの軸となる3つの教学コンセプト

都市に立地するキャンパスの特性や、新キャンパスを構成する学部・研究科の特徴を活かし、3つの教学コンセプトを軸としてキャンパス創造・教学展開を進めます。

Concept #1 アジアのゲートウェイ

課題先進国である日本の経験と知の蓄積を活かして、アジアから世界へ、世界からアジアへ人と人、知と知をつなぐ「ゲートウェイ」としての役割を發揮します。



関連する教学構想・施設整備例
アジア・中国ビジネスプログラム ➡ 経営学部
海外の大学との連携による コミュニティ・エクスチェンジ・プログラム ➡ 政策科学部・政策科学研究科
共同学位プログラム(フランス) 留学生飛び級入学プログラム(中国) ➡ 経営学研究科
国際教学推進拠点の整備 言語の自律学習機能、 国際交流・コミュニケーション機能 など

Concept #2 都市共創

「都市」に集積する多様な人材や組織をつなぎ、都市の中に点在するポテンシャルを最大限に引き出し、それらを創造的に結びつけることによって、新たな価値の創出を目指します。



関連する教学構想・施設整備例
産学協同アントレプレナーシップ教育プログラム ➡ 経営学部
政策実践研究プロジェクト・リサーチプロジェクト ➡ 政策科学部・政策科学研究科
企業が抱える課題に学生が取り組む、 課題解決型長期企業実習「プラクティカム」 ➡ テクノロジー・マネジメント研究科
働きながら学べる、社会人向け大学院プログラム ➡ 経営管理研究科 ➡ テクノロジー・マネジメント研究科

Concept #3 地域・社会連携

地域・社会と連携した教育・研究・学生活動を通じて、相互の交流と信頼関係を育み、豊かな地域・社会の創造と人材育成に取り組みます。



関連する教学構想・施設整備例
政策構想演習 ➡ 政策科学部
地域共創プロデューサー育成プログラム ➡ 政策科学研究科
大阪茨木におけるスマートコミュニティ形成 ➡ デザイン科学研究センター
地域・社会連携推進拠点の整備 地域・社会との共同プロジェクト、 市民向け講座・セミナー等の開催 など

大阪茨木立命会について

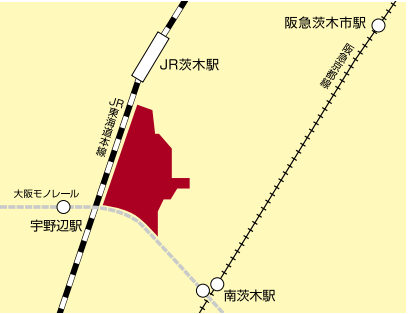
大阪茨木立命会は、茨木市在住・在勤および縁のある校友によって2012年10月21日に設立された地域の校友会です。会員相互の親睦はもちろんのこと、立命館大学と茨木市民、および地域社会との交流を積極的に支援し、それらを通じて母校の発展と充実に寄与することを目的としています。茨木市においては、2015年4月に「立命館大学大阪いばらきキャンパス」が開設されます。新キャンパスの立地する地域校友会として果たすべき意義や理念を大切にし、今後も茨木を起点とした大学と校友、そして市民の皆様とをつなぐ役割を担っていきます。今年度も右記の通り総会・懇親会が開催されますので、ぜひご参加ください。

大阪茨木立命会 総会・懇親会

- 日時：2013年10月12日(土) 18時00分～
- 会場：茨木市役所南館9階茨木スカイレストラン
- 会費：男性校友 7,000円 女性校友 5,000円
- お申込み・お問い合わせ：
大阪茨木立命会事務局(担当：事務局長 庄山由多加)
〒567-0892 大阪府茨木市並木町7-14
Tel & Fax ▶ 072-635-0129
E-mail ▶ yutaka@belleflora.jp
公式HP ▶ http://alumni.ritsumei.jp/osaka_ibaraki/

概要

所在地 大阪府茨木市岩倉町1番1他
面積 約9.9万m²
※衣笠キャンパス(京都)：12.6万m²
びわこ・くさつキャンパス(滋賀)：61.1万m²
学生数 約6,000名(2015年4月開設時)
アクセス JR茨木駅から徒歩約5分
阪急南茨木駅から徒歩約10分
阪急茨木市駅から徒歩約20分
大阪モノレール宇野辺駅から徒歩約7分



キャンパス立地

新キャンパスは交通至便な立地で、通学圏や教育・研究のフィールドが大きく広がります。また、キャンパス周辺には様々な文化・商業施設があり、市街地でありながら緑豊かな環境が特徴です。



新キャンパスの計画やニュースは、キャンパス創造HPで紹介しています。 <http://www.ritsumei.ac.jp/rs/r2020/campus/oic/>

校友会未来人財育成基金

～校友による新たな「後輩・母校支援」の形～



立命館大学校友会は、母校に学ぶ後輩を支える最大のサポーター組織であり続けるために、恒常的に息の長い支援を続けることのできるサイクルを生み出したいと考えました。「校友の支援で後輩が育ち、後輩の成長が母校を発展させる」、その具体化として「校友会未来人財育成基金（以下、基金）」の創設を大学に申し入れ、感謝の意をもって了承されました。基金への支援は立命館大学への寄付となります。

校友会は立命館大学とともに基金の募集推進を昨年10月から行っており、2013年8月29日時点で810名1,153件19,412,858円のご支援をいただきました。

今回は、基金の理念の共感者の輪を拡げる役割を担うRFS（立命館未来サポーター）の方が中心となり行なわれた最近の取り組みをご紹介します。校友一人ひとりが主人公となり、「立命館の未来を創る」活動に、あなたもぜひご参加ください！

石川県校友会 校友の集い

2013年8月10日（土）に石川県校友会において総会とは別に開催されている「校友の集い」が行なわれた。この「集い」に先立ち高村満男RFS（'73産社）や石川県校友会役員が中心となり、県内各所において事前集会が行なわれたこともあり、約60名の参加があった。今回の「集い」では、加納裕会長（'78産社）から冒頭の挨拶の中で「校友による新たな後輩・母校支援」である基金の理念の紹介と積極的な協力をお願いが行なわれた。続いて、校友会本部事務局から概要が説明された後、高村RFSから「この基金の理念はより多くの校友が日常的に後輩や母校を想うことにある。この支援を通じて一人でも多くの校友がその想いを届けてほしい」と参加校友一人ひとりへ力強いメッセージが届けられた。



奈良県校友会 役員会

2013年8月17日（土）に奈良県校友会において役員会が開催され、お盆の時期にも関わらず約20名の出席があった。今回の役員会は、基金の募集推進がメインテーマとなり、粕井憲会長（'69経済）からは基金の概要についての紹介と共に、「この基金の理念の共感者の輪を拡げる活動を通して、校友会活動自体の裾野を広げる機会としたい」との意気込みが述べられた。酒谷庄兵衛RFS（'57経済）からは、後輩・母校に対する息の長い支援の必要性が語られ、「より幅広い校友による日常的な支援、“広く・長い”支援を目指していこう」との呼びかけが行なわれた。その後は、基金の募集推進に向けた活発な意見交換が行なわれ、校友会本部事務局からは、今後の募集推進方策についての報告があった。



募集要項

1. 寄付の金額

- (1) 個人の場合／ひと口1,000円からご支援いただけます。
（継続的な寄付【毎月・毎年・年2回】をぜひお願いします）
- (2) 法人の場合／ひと口の金額は特に定めておりません。

4. 申込方法

① WEBで申込む

立命館大学校友会のホームページよりお申込みください。
簡単な手続きで完了いたします。
クレジットカードをはじめ銀行振込・コンビニ決済など多様な方法にてご寄付いただけます。

<http://gift2r.info>



←携帯電話からのアクセスはこちら！

※一部機種によっては
ご覧いただけない場合がございます。



② 書面で申込む

校友会事務局に資料をご請求ください。
銀行振込・口座振替にてご寄付いただけます。

5. 第1次活用プラン（2012年～2020年）

「学生×校友×京都」グローバル人材育成交流拠点の設置
～過去・現在・未来を結ぶ空間、校友の経験値を後輩に繋ぐ出発点～

6. 税制上の優遇措置について

本寄付は立命館大学に対する寄付金であり、税制上の優遇措置を受けることができます。

お問合せ先

（受付時間：土日祝を除く9:00～17:30）

■ 校友会未来人財育成基金に関しては・・・立命館大学校友会事務局 075-813-8216

■ 寄付の受入れ、税制上の優遇措置に関しては・・・立命館 総務部 寄付事務局 075-813-8110

海の向こうの立命人

ASIA GATE HAI PHONG 代表

豊田 英司 さん（'97国関）

世界中に広がる校友たちの活躍の舞台。『海の向こうの立命人』では、各国で活躍する校友を紹介します。今回は、ベトナム・ハノイで活躍するASIA GATE HAI PHONG代表の豊田英司さんにインタビューし、ベトナムで働くこと、暮らすことについてお聞きしました。



From
Hanoi (Viet Nam)

若い力にあふれた国

現在のベトナムは、急激に経済が成長した後のやや不況といった状態。けれど、それも成長のための痛みと言うべきものであり、国民は今後どうすれば世界で生き残っていけるかを真剣に考え始めています。ベトナムの主力世代は20代後半から30代。とにかく若い国なので希望があります。まさに「これから」という国です。

日本だと「過去」に学ぶことが多いのですが、歴史に翻弄されてきたベトナムでは「現在」、つまり新しいところから学びます。情報がどんどん入り、自由に知識を得ることができる今の若い世代はとても頭の良い人が多い。政治思想的な背景から、視野が狭くなっている側面はありますが、努力の面も含めて同じ年頃の日本人より大きなポテンシャルを感じます。

「人間力」が試される面白さ

中国やインドネシアなどでのビジネスの経験を経て、いま私は、ハノイとベトナム第3の都市であるハイフォンを拠点に、日系企業を対象としたコンサルタント業をしています。大学で国際関係学部を志望したことにもつながっていますが、中学の時に読んだ本の影響で、「将来必ず、海外で日本を助けるような仕事をしよう」と思い続けてきました。その思いと、周囲の方の応援に支えられてベトナムで起業。夢を実現することができたと思っています。

法的な部分でまだ未整備などところがあるベトナムでは、ビジネスにおけるあらゆる判断が、その人に対する解釈で変わってしまう。人格、人脈といったものを総動員させる必要があります。海外に出る時には、その文化に生きる人の判断の軸となるものをまず理解しなくてはなり



PROFILE
Eiji TOYODA

神戸市出身。大手企業で中国やインドの海外人事業務の経験を積み、インドネシアの現地拠点の立ち上げなどに携わる。2012年、コンサルティング会社「ASIA GATE HAI PHONG」を設立。学生時代はモンテ・カセム立命館総長特別補佐（前APU学長）のゼミで学ぶ。「カセム先生から多くの薫陶を受け、『自分は国際レベルの方と話してもなんとかなる』という自信を持つことができました。その経験は私にとって非常に大きなものになっています」。ハノイ校友会事務局長。

ませんが、その点で言えば、ベトナム人にとっての軸は「家族」。仕事においても、ベトナムでは擬似的家族という関係性を作るのが基本です。人間力を試されますが、それが面白さでもあります。

アジアで感じる立命館校友の存在感

立命館の校友は、ベトナムに限らずアジア各国で活躍しています。特にAPUで学んだベトナム人校友は、日系銀行や商社、日本からの投資に絡む政府機関等で非常に重要な役割を担っています。ハノイ校友会では、日本人校友もベトナム人校友も入り混じり、気軽な雰囲気を楽しんでいます。「現地にいる立命館関係者がより親睦を深められる場所」「新たにハノイにいらっしゃる立命館関係者が頼りにできる組織」「国籍に関係なくハノイにいる立命館関係者が交遊を深められる雰囲気」を心がけ、これからも活動を続けていくつもりです。

ものづくりに関するノウハウや、サービス業におけるきめ細かな心配りなど、日本はまだまだベトナムに貢献できる余地があると思います。日本語や英語を一生懸命に学んでも、海外で働くチャンスが与えられないアジア各国の人を、私はこれまでにたくさん見てきました。立命館の校友は「やる気さえあれば海外で働くチャンスはいくらでもある」という素晴らしい環境にあります。ぜひその境遇に感謝し、活かしてほしいですね。

昨年、校友会旗を
いただきました！

校友会
DATA

ハノイ校友会

2009年設立
会員数約40名
3カ月に1度懇親会を開催



経済学部同窓会が現役学生へのサポートの一環として、 「経済学部就職活動応援企画」を支援

－ 経済学部同窓会による次代を担う人材育成への貢献 －

経済学部同窓会は、同窓会員相互の親睦を深めるとともに校友会本部と連携しながら母校と経済学部の発展に寄与するため、同窓会員、学部学生、大学院学生、学部とのネットワーク形成を事業の重要な柱としています。活動の具体化にあたっては、役員会を中心に、とくに現役学生との交流を推進し、同窓会組織の拡大や活性化に繋げることの重要性について議論を重ね、ホームカミングデーや毎年の講演会や懇親会で現役学生を交えた企画を実施してきました。

こうした活動の到達点を踏まえ、昨年末より学生の「学びと就活」に対してサポートを模索していた経済学部同窓会では、偶然にも同じ時期から経済学部で計画されていた学生の就職活動応援企画への支援を進めています。社会の様々な分野で活躍を続ける同窓会員が、後輩である経済学部の現役学生へのサポートを具体化させるこの学生支援は、双方の思いが結実した取り組みです。

かねてから経済学部では、企業などの厳選採用が続くなか、学生が学び、学生生活を通じて成長した成果を十分に発揮して進路形成を行なっていくために、キャリアセンターと連携しながら学部独自の就職活動応援企画についての具体化が進められてきました。そこで新たに3回生を対象にして、5月から連続企画としてスタートさせ、その総仕上げとして来年1月には、経済学部卒業生を講師にした2日間にわたる面接実習「メントレ」の開催が計画されています。

これらの企画に対する支援の要請をうけた経済学部同窓会では、これまでの事業の成果を踏まえながら、同窓会のネットワークを生かして、社会で活躍する多くの同窓会員が、より直接的に現役学生をサポートする取り組みに触れながら、さらに連続した形での支援を続けられるように考えています。また、同窓会員と学生の交流をいっそう発展させることで、次代を担う人材育成に積極的に貢献する取り組みとして展開し、同窓会事業のいっそうの充実を図っていきます。

「漢字をきわめ、教える力へ」漢字教育士資格認定講座が開設されました

立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所（白川研）は、株式会社Z会と共同で、漢字に関する知識を体系的に学び、また漢字を教える力を身に付けることのできるWEB通信講座を2013年3月に開講しました。所定講座の受講を修了し、白川研に申請すれば「漢字教育士」の資格を取得できます。分割受講ができますので、白川文字学をはじめとする漢字の教養を高めたい方にもお勧めです。

近年漢字の学習に対する関心が高まっていますが、その方法は旧態依然とした丸暗記が中心です。白川研では故・白川静先生の研究成果を基礎とした体系立った漢字教育の方法を開発して漢字教育士の養成を始めており、すでに全国で約200名の漢字教育士

が誕生しています。年齢・職業等様々な背景をもつ漢字教育士が、学校での国語教育や企業での社員教育、地域社会での生涯学習等の講師として活躍しています。

子どもたちの国語力をはじめとした文化力を育むために、そして地域社会の活性化のために。今あなたの「教える力」に大きな期待が寄せられています。

WEBサイト：<http://www.zkai.co.jp/ca/kanji/>
「Z会 漢字教育士」で検索
講座内容お問い合わせはZ会キャリアアップコース、カスタマーセンターまで
電話番号 0120-919-996（月～土 9:00～17:30）
校友優待価格でのお申し込みは社会連携課（075-813-8209）まで

講座名	内 容	校友優待価格（税込）	推奨学習期間
漢字教育士フルバック（資格認定）	漢字学総論Ⅰ・Ⅱ、漢字学各論Ⅰ・Ⅱの一括申込	54,000円	1年
漢字学総論Ⅰ	漢字の基礎知識、漢字の歴史、中国古代文字、など＜全20回＞	13,500円	3ヶ月
漢字学総論Ⅱ	漢字の音について、「訓」について、など＜全20回＞	13,500円	3ヶ月
漢字学各論Ⅰ	白川文字学＜全20回＞	13,500円	3ヶ月
漢字学各論Ⅱ	日本の漢字、英語による漢字教育、JIS漢字など＜全20回＞	13,500円	3ヶ月

2013年4月に俳優・武田鉄矢さんに「名誉漢字教育士」の称号を授与しました

武田鉄矢氏「名誉漢字教育士」授与記念特別対談 サイト
（立命館大学生に向けたメッセージもあります）
<http://www.ritsumei.ac.jp/rs/category/tokushu/130628/>



立命館大学 大学院入試説明会 2013

11/10（日）、17日（日）、24日（日）/ BKC・大阪（会場未定）・衣笠

大学院進学をした
校友のご紹介

大学院入試説明会を開催！

学部生はもちろん、年齢問わず社会人の方のご参加も大歓迎。科目等履修生等の非正規生も含め、大学院にご興味ある方はお気軽にご参加ください。（参加申込不要）

内 容

- 立命館大学大学院・研究科の概要
- 入試・奨学金制度のご案内
- 参加研究科による個別説明会・個別相談など

詳細はHPへ

http://www.ritsumei.jp/gr/gr04_j.html

お問い合わせ

衣笠大学院課（075-465-8195）

自分を超越するための第一歩を

松本 吉弘さん（'94法）

経営管理研究科 在学中
京都中央信用金庫 経営企画部次長



過去の実務経験だけでは越えられない壁に直面した際、経営理論を学ぶことで能力の幅を広げたい、と経営管理研究科へ進学。理論に基づいた説得力のある仕事ができるようになり、また人脈も広がり、学びを仕事に活かしながら充実した時間を過ごしている。

「一歩踏み出さないと何も変わらない。」進学前は仕事と学修の両立等不安も多かったが、今ではそれが当たり前。新たな一歩への挑戦を今後も続けたい。

学び続けることの面白さ

紙谷 和典さん（'84済）

テクノロジー・マネジメント研究科
博士課程後期課程修了
博士（技術経営）
日本推進建設（株） 代表取締役



「経営者は技術の価値を分かった上で、技術をどう経営に結びつけていくかという視点が必要」という技術経営（MOT）に興味を持ち、体系的に経営を勉強し直すため、テクノロジー・マネジメント研究科博士前期課程に入学。学び続けることで、海外での学会発表や学生との共同研究など、仕事では味わえない経験ができた。また、博士後期課程にも進学し、専門家とも議論できる専門分野を持つことができた。



都道府県校友会／海外校友会

- 6/2 三重県校友会総会 (150名・プラザ洞津)
 三重県校友会
- 6/15 山梨県校友会総会 (41名・アーバンヴィラ古名屋ホテル)
 新潟県校友会
- 6/16 滋賀県校友会総会 (170名・大津プリンスホテル)
 香川県校友会
- 6/22 奈良県校友会総会 (220名・奈良ロイヤルホテル)
 高知県校友会
- 6/29 新潟県校友会総会 (98名・ホテルイタリア軒)
 大阪校友会
- 6/29 香川県校友会総会 (160名・ホテルパールガーデン)
 岩手県校友会
- 6/29 高知県校友会総会 (40名・ザクラウンパレス新阪急高知)
 佐賀県校友会
- 7/5 大阪校友会年次大会 (500名・スイスホテル南海大阪)
 佐賀県校友会
- 7/6 岩手県校友会総会 (21名・ホテル東日本)
 佐賀県校友会
- 7/6 佐賀県校友会総会 (38名・ホテルニューオータニ佐賀)
 佐賀県校友会
- 7/12 北京校友会総会 (17名・義和雅居)
 佐賀県校友会
- 7/14 第2回上海今出川会 (90名・外灘船上)
 佐賀県校友会
- 7/20 宮城県校友会総会 (39名・仙台ガーデンパレス)
 佐賀県校友会
- 7/20 神奈川県校友会総会 (70名・崎陽軒)
 佐賀県校友会
- 7/20 岐阜県校友会総会 (120名・グランヴェール岐山)
 佐賀県校友会

- 7/20 徳島県校友会総会 (約80名・阿波観光ホテル)
 北京校友会
- 7/21 岡山県校友会総会 (約210名・アークホテル岡山)
 宮城県校友会
- 7/27 青森県校友会総会 (24名・ウェディングプラザ「アラスカ」)
 青森県校友会
- 7/27 秋田県校友会総会 (21名・パーティーギャラリーイタカ)
 秋田県校友会
- 7/27 愛媛県校友会総会 (約60名・リジェール松山)
 秋田県校友会
- 7/28 静岡県校友会総会 (76名・クーボール会館)
 静岡県校友会
- 8/2 和歌山県校友会総会 (83名・ホテルグランヴィア和歌山)
 静岡県校友会
- 8/3 沖縄県校友会総会 (約40名・メルキュールホテル沖縄那)
 静岡県校友会
- 8/23 ニューヨーク校友会設立10周年記念総会 (20名・Palm Too)
 静岡県校友会
- 8/24 熊本県校友会総会 (37名・熊本全日空ホテルニュースカイ)
 静岡県校友会

地域校友会

- 6/1 兵庫県校友会西宮支部総会 (25名・日本盛 酒蔵通り煉瓦館)
 兵庫県校友会西宮支部
- 6/8 愛知県校友会東三河支部総会 (80名・ホテルアソシア)
 愛知県校友会東三河支部
- 6/15 東広島地区校友会総会 (約30名・賀茂泉館)
 愛知県校友会東三河支部
- 6/29 亀岡校友会総会 (20名・ガレリアかめおか)
 愛知県校友会東三河支部

- 7/6 山口周南地区校友会総会 (約50名・ホテルサンルート徳山)
 亀岡校友会
- 7/7 八幡支部総会 (22名・東華菜館)
 亀岡校友会
- 7/27 長野県校友会飯伊地区会総会 (16名・湯～眠)
 亀岡校友会

職域校友会

- 5/31 建設会広島県支部総会 (約40名・リーガロイヤルホテル広島)
 京滋観光の会
- 6/5 高槻市役所槻立会総会 (52名・アンシェルデ・マリアージュ)
 京滋観光の会
- 6/5 西宮市役所立朋会総会 (35名・上海料理 陳餐閣)
 京滋観光の会
- 6/22 技術士会総会 (37名・中央電気倶楽部513号)
 京滋観光の会
- 6/28 金沢市役所立林会総会 (17名・金澤玉寿司本店)
 京滋観光の会
- 7/5 立命京滋観光の会総会 (25名・ホテル京阪京都)
 京滋観光の会
- 7/12 八尾市役所「立八会」総会 (38名・山徳)
 京滋観光の会
- 7/17 奈良県庁校友会「立鹿会」総会 (56名・春日野荘)
 京滋観光の会
- 7/20 全国行政書士立命会交流記念大会 (30名・朱雀キャンパス)
 京滋観光の会
- 8/2 ひろぎん立命会総会 (約60名・ANAクラウンプラザ広島)
 京滋観光の会
- 8/7 奈良市役所立命会総会 (39名・沙山華)
 京滋観光の会
- 8/21 池田泉州銀行立命会総会 (約80名・スイスホテル南海大阪)
 京滋観光の会

学部・学科・ゼミ校友会

- 6/15 経営学部校友会総会 (58名・からすま京都ホテル)
 文学部神保ゼミ同窓会
- 6/15 校友会RIMO総会 (約100名・朱雀キャンパス)
 文学部神保ゼミ同窓会
- 6/29 法学部同窓会総会 (130名・京都ロイヤルホテル&スパ、法学部商法塩田ゼミOB会)
 文学部神保ゼミ同窓会
- 7/6 法学部商法塩田ゼミOB会 (29名・京都ホテルオークラ)
 文学部神保ゼミ同窓会
- 7/6 文学部神保ゼミ同窓会 (12名・料理旅館「鮎宗」)
 文学部神保ゼミ同窓会
- 7/13 国際関係学部校友会総会 (160名・東京ステーションコンファレンス6F)
 文学部神保ゼミ同窓会
- 7/21 映像学部同窓会総会 (31名・メルパルク京都)
 文学部神保ゼミ同窓会
- 7/26 建設会滋賀支部総会 (61名・琵琶湖ホテル)
 文学部神保ゼミ同窓会

サークルOB・OG会

- 6/1 応援団OB・OG洛水会総会 (17名・朱雀キャンパス)
 ウリ同窓会

その他の会

- 6/1 ウリ同窓会総会 (60名・ホテルグランヴィア京都)
 ウリ同窓会
- 6/2 エース会総会 (約10名・エクシブ浜松)
 清和会
- 6/22 清和会総会 (500名・ウェスティン都ホテル京都)
 清和会



SPORTS スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター
075-465-7863

ユニバーシアード競技大会

第27回ユニバーシアード ロシア・カザン大会で立命館大学の学生が健闘

(7月5～12日 ロシア・カザン)



第27回ユニバーシアード競技大会において、立命館大学の学生たちが優秀な成績をおさめ、日本の躍進に貢献しました。日本は開催国ロシアと中国に次ぐ24個の金メダルを獲得。1995年の福岡大会に並ぶ最多の金メダル獲得数を記録しました。獲得したメダル総数もロシアの292個に次ぐ84個となりました。立命館大学の学生が出場した各競技・種目の結果は以下のとおりです。

【陸上競技】

◆女子ハーフマラソン(個人)

優勝 津田真衣さん(経営3)

7位 三井綾子さん(スポ健4)

◆女子ハーフマラソン(団体)

優勝(津田さん、三井さんが出場)

◆女子10,000m

3位 津田真衣さん(経営3)

◆女子20kmW

13位 前田浩唯さん(経済4)

【シンクロナイズスイミング】

乾友紀子さん(経営5)が出場

◆チーム：2位 ◆ソロ：2位

◆デュエット：2位 ◆コンビネーション：2位

【ホッケー(男子)】

1勝2敗2分け 7位

【ホッケー(女子)】

2勝2敗 3位

✓ ホッケー部

第32回全日本大学ホッケー王座決定戦において男子が優勝、女子が第3位を獲得

(6月21～25日 岐阜グリーンスタジアム)

第32回全日本大学ホッケー王座決定戦において、男子が3年ぶり4回目の優勝で2013年度王座のタイトルを獲得するとともに、女子が第3位に輝きました。男子は、準決勝の山梨学院大学戦を4-3で勝ち上がると、決勝の朝日大学戦では4-0の完封勝利を収め、3年ぶり4度目の優勝を果たしました。大会の最優秀選手には主将の堀谷広太さん(文4)が選ばれました。女子は、準決勝の山梨学院大学戦において惜しくも1-2で敗退したものの、第3位決戦(駿河台大学戦)では2-1で勝利を収め、大会3位を獲得し、大会を終えました。



🏀 卓球部女子

第83回全日本大学総合卓球選手権大会女子団体5年ぶりの3位入賞

(6月27～30日 スカイホール豊田体育館)

全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)において、卓球部女子が準々決勝で第1シード前年度優勝校の東京富士大学に3-2の接戦の上、勝利し、ベスト4進出を果たしました。続く準決勝では専修大学に0-3で敗れましたが、5年ぶり4回目となる3位入賞を果たしました。

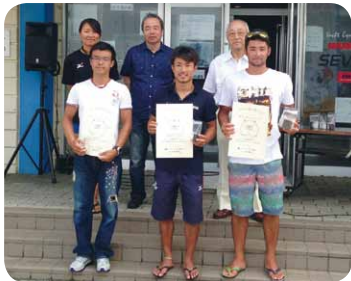


🏆 Windward

板底雄馬さんが2013年テクノ293全日本選手権大会で優勝

(8月30日～9月1日 和歌山セーリングセンター)

ウインドサーフィンの全日本選手権大会において、ウインドサーフィンサークルWindward主将の板底雄馬さん(スポ健3)が、優勝を果たしました。ウインドサーフィンのレース競技では、年齢制限がない全日本クラスの大会は、本大会と8月3、4日に開催された伊勢湾カップのみとなります。板底さんは、伊勢湾カップでも優勝しており、2013年の全日本クラスの選手権連覇という快挙を達成しました。



前列右端が板底さん

CULTURE/ART 文化・芸術

問い合わせ先：学生オフィス
075-465-8167

🌀 トリックルーム

2013年全日本ヨーヨー選手権大会(Japan National Yo-Yo Contest 2013)1A部門において徳淵皓要さんが優勝

(6月1、2日 Winc Aichi 大ホール)

2013年全日本ヨーヨー選手権において、ヨーヨーサークル「トリックルーム」の徳淵皓要さん(薬4)が初優勝を果たしました。徳淵さんが参加した1A部門は、スタンダードな競技ヨーヨーを使って、選手が自分で選んだ音楽に合わせて3分以内のフリースタイル(自由演技)を行なう競技ルールとなっています。ヨーヨー1つを使用した巧みな動きが要求され、技術だけではなく、表現力

も審査対象となります。決勝の演技では、減点対象となるミスは1回もなく、表現評価点では1A部門の出場選手の中でトップの成績を獲得し、優勝を果たしました。



🎲 珠算部

セタそろばんワールド2013の団体総合競技5連覇を達成

(7月14日 三重中京大学)

セタそろばんワールド2013において、珠算部が団体総合競技で優勝、個人では山入端未有さん(経営3)が総合4位、読上算の部で準優勝を果たし、山下樹里亜さん(文1)がフラッシュ暗算の部で3位を獲得しました。引き続き、今後も開催される全国レベルの大会での活躍が期待されます。



🏠 将棋研究会

2013年度 第9回富士通杯争奪全国大学将棋大会で初優勝

(8月9、10日 富士通ソリューションスクエア)

富士通杯争奪全国大学対抗将棋大会が開催され、将棋研究会が初優勝を果たしました。2012年度の準優勝の雪辱を晴らす結果となりました。今大会では昨年の同大会で敗れた東京大学や京都大学を破り、個人では上田裕典さん(産社2)が全勝賞を獲得する活躍を見せました。引き続き開催される、全日本学生将棋団体対抗戦(学生王座

戦)や全日本学生将棋十傑戦(学生王将戦)などでも日本一を目指します。



📄 かるた会

第20回全日本大学かるた選手権大会団体の部で準優勝

(8月10、11日 近江神宮勤学館)

第20回全日本大学かるた選手権大会団体の部において、かるた会が準優勝を果たしました。昨年は大学代表の部や学年別の部で好成績をあげましたが、今年は個人の部に加え団体の部でも準優勝を勝ち取りました。個人の部においても、大学代表の部で本多恭子さん(スポ健4)が準優勝、学年別の部で飯田花菜子さん(文3)が優勝、田中悠貴さん(経営3)が準優勝と好成績を上げました。また、8月24日に開催された全国かるた競技学生選手権大会においても、青地麻琴さん(産社1)が3位、飯田花菜子さん(文3)が4位を獲得。今後の大会での更なる活躍が期待されます。



🎲 囲碁研究部

呉理沙さんが第49回全日本女子学生本因坊決定戦で準優勝

(8月9～11日 バレササイドビル)

囲碁のアマチュア女子学生棋士日本一を

決める第49回全日本女子学生因坊決定戦において、呉理沙さん(国関3)が準優勝を果たしました。決勝で惜しくも敗れたものの、2012年度の同大会優勝に続く好成績を上げました。



右から2番目が呉さん

CAMPUS ACTIVITIES 学生活動

問い合わせ先：学生オフィス
075-465-8167

立命の家2013

～おもちゃ箱～夢の世界へ飛び立とう!

(8月21、22日 びわこ・くさつキャンパス)

びわこ・くさつキャンパス(BKC)にて、「立命の家2013」を開催しました。本企画は、学術系団体やプロジェクト団体の学生が組織・運営する実行委員会のもと、近隣の小学生を対象に、科学や英語、ものづくりの楽しさを知ってもらうことを目的としており、2013年度で13回目の開催となりました。全10団体、140名以上の学生が企画運営や引率スタッフとして参加し、両日とも近隣の小学生60名と17名の保護者の方々と交流を図ることができました。今回は「おもちゃ箱～夢の世界へ飛び立とう!」というサブテーマを設定。当日は、身近な材料を使った鉄道模型ジオラマ制作、プログラミング体験、科学実験ショー・科学体験などを行ないました。



大阪茨木新キャンパス 構想説明会を開催

6月29日(土)、茨木市福祉文化会館5階文化ホールにおいて、大阪茨木新キャンパス構想説明会を開催し、2015年4月開設の大阪いばらきキャンパスの計画概要と立命館大学の教育・研究の取り組みや学生の諸活動についての説明・報告を行いました。会場には、茨木市民の方々と始め、市の関係者や学校関係者など、満員となる約350名の参加がありました。説明会では、木本保平・茨木市長、山本隆俊・茨木市議会議長からの挨拶で茨木市と立命館大学との連携への期待などが述べられました。また、学生有志の活動である「立命館－茨木パートナーシッププロジェクト(RIPP)」による活動報告や学生の視点で感じた茨木を伝える冊子「Roots」の紹介などが行なわれました。

大阪茨木新キャンパス整備事業 安全祈願祭を開催

7月10日(水)、大阪いばらきキャンパス建設地において、「大阪茨木新キャンパス整備事業 安全祈願祭」を開催しました。安全祈願祭には、長田豊臣理事長や、川口清史総長をはじめとする立命館大学関係者、茨木市関係者、設計・施工会社の関係者が集い、安全祈願の神事が厳粛に執り行なわれました。



デザイン科学研究センター シンポジウム「大阪茨木におけるスマート・コミュニティのデザイン」を開催

7月20日(土)、茨木市市民総合センター(クリエイトセンター)多目的ホールにて、立命館大学デザイン科学研究センター主催のシンポジウム「大阪茨木におけるスマート・コミュニティのデザインースマイルを生み出す地域物語の共創－」を開催しました。本シンポジウムは、スマート・コミュニティ化(環境配慮型都市化)の「あるべき姿」について、「スマイルあふれる地域コミュニティ」「地域物語の発見・創造」を旗印に、産業、環境、地域そして大学の未来について語り合い、今後の大阪いばらきキャンパスの役割について考える機会となることを目的に開催されました。会場には100名近い参加者が訪れ、シンポジウムは盛況のうちに終了しました。



第7回立命館白川静記念東洋文字 文化賞表彰式を開催

6月6日(木)、衣笠キャンパスにて「第7回立命館白川静記念東洋文字文化賞」の表彰式を開催しました。本賞は、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所が、故・白川静・立命館大学名誉教授の功績を顕彰するとともに、東洋文字文化に関する研究、普及および教育活動等の奨励支援のため、個人または団体の業績を表彰することを目的としています。加地伸行・同研究所副所長からの講評の後、服部健二・同研究所長より表彰状と副賞の授与が行なわれました。続けて白川名誉教授への名誉漢字教育士認定証追贈式を実施しました。所長よりご遺族の津崎幸博、史夫妻に名誉漢字教育士認定証書が贈られました。

<受賞者>

教育普及賞 張莉氏(同志社女子大学現代社会学部)
対象業績:『白川静文字学的精華』



「立命館西園寺塾」 開設記念特別講演会を開催

7月28日(日)、朱雀キャンパス5階大講義室において、文化勲章受章者で哲学者の梅原猛氏を講師にお迎えし、「立命館西園寺塾」開設記念特別講演会を開催しました。梅原氏の著書を手にした熱烈なファンをはじめ、約400名の聴講者が参加しました。講演会に先立ち、長田豊臣・立命館理事長は、開会の挨拶の中で同氏と同塾の紹介を行ないました。梅原氏は、講演会の中で親交のあった文化勲章受章者である故・白川静・立命館大学名誉教授との思い出話も交えながら、自身と立命館との関係を語りました。その後、「人類哲学序説」というテーマに基づき、科学技術を駆使して自然を征服してきた西洋の文化と、稲作漁撈採集文化に基づき自然を大切にしてきた日本文化の差異を紹介し、「東日本大震災を経て、日本人はその使命として、自然との共生に基づいた文明を創造していかなければならない」と訴えました。



夏のオープンキャンパス2013を開催

8月3日(土)、4日(日)、衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス(BKC)にて、立命館大学オープンキャンパス2013を開催しました。2日間で総数16,384名もの受験生、保護者らが立命館大学を訪れました。立命館大学の魅力を体感してもらうため、

各学部がそれぞれの教育内容や正課・課外を通じた学生の成長をリアルに伝えようと、様々な企画を実施。学部紹介や入試説明会、模擬授業をはじめ、映像学部の立命館松竹スタジオ・撮影所見学、最新機器を使用してスポーツ動作などを計測できるスポーツ健康科学部の「自分の動きを見てみよう!」などの参加体験型企画や学部ごとに特徴のある企画に、多くの受験生・保護者が積極的に参加していました。



学生が企画・提案 滋賀県産の夏らしい野菜・果物を活かした「地産地消ソフトクリーム」を立命館生協ショップで期間限定販売

7月1日(月)から5日(金)にかけて、びわこ・くさつキャンパス(BKC)の生協ユニオンショップの特設コーナーにて、夏を感じさせる滋賀県産の地元農産物を活かした「地産地消ソフトクリーム」を販売しました。本企画は、立命館生活協同組合、同学生委員、JA草津市、JAおうみ富士、草津市と連携し、産学官農連携による農業の6次産業化に向けたモデルケース構築の第一歩として、滋賀県産の旬の野菜や果物を使用したソフトクリームを販売。キャンパス内での販促活動を通じて、学生の地産地消に対する意識の向上や、食育に繋げることをねらいとしています。ソフトクリームは数量限定で、草津産のメロン、潮rise菜(アイスプラント)、あおばななどが日替わりで販売されました。



立命館大学で「インドネシア政府防災研修(第3期)」を実施

6月24日(月)から7月7日(日)にかけて、立命館大学のキャンパス、東京都や「東日本大震災」の被災地である岩手県で、インドネシア政府防災研修(第3期)を実施しました。本研修は、インドネシア国家開発企画庁(BAPPENAS)からの要請に基づき、JICA円借款を活用し、2011年から毎年1回実施しています。これまで50名の研修員を受け入れ、今回も行政官・大学教員など25名を受け入れました。研修団は、7月1日(月)から3日(水)にかけて、岩手県遠野市、宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市を訪問し、市長や復興担当行政官による講演、意見交換を行ないました。7月2日(火)の宮古市視察では、宗本晋作・理工学部准教授がゼミ生と建設した鉾ヶ崎地区の簡易集会所、ODENSE2号の見学、民生委員や地元商店の方から、鉾ヶ崎地区の区画整備や防災マップ、ODENSEの活用方法などについてのお話を伺いました。



キャンパスアジア・プログラム受講生が 国際平和ミュージアム研修を体験

6月22日(土)、国際平和ミュージアムにおいて、キャンパスアジア・プログラム受講生が同ミュージアム研修を体験しました。本研修は、正しい歴史認識に基づき、受講生が中国・韓国から来た来館者を案内できることを目標として行なわれました。担当テーマごとに8グループに分かれて、受講生たちは、事前学習に基づき作成したメモを見ながらガイダンスの予行演習を行なったり、展示物に付された説明版を読み込んだりしながら、ガイドの準備に取り組み、日中韓3ヶ国語でガイドに挑戦しました。身振り手振りでガイドを行なう受講生や、自身の歴史観を紹介しながら行なう受講生等、個性溢れるガイドが展開されました。



「台湾・淡江大学×立命館大学 学生フォーラムTRACE 2013 in東北」を実施

8月3日(土)から12日(月)にかけて、宮城県仙台市、陸前高田市、気仙沼市、岩手県宮古市、大船渡市において、淡江大学(台湾)の学生6名と立命館大学の学生10名が、ともに東日本大震災の被災地を訪れ、災害復興や防災に関する国際協力のあり方などを考える学生フォーラムを実施しました。本企画は、日台の学生たちが東日本大震災の被害と復興にむけた課題、原子力発電所事故の問題などへの理解を深め、距離が離れた場所からの支援のあり方、災害復興や防災に関する国際協力のあり方などを考え、中長期に及ぶ復興支援につなげるとともに、若い日台の学生たちの絆を強める取り組みとなることを目指して実施されました。被災地や復興・防災に関する研修と、被災した地域でのフィールドワーク、地域住民との交流、東北の大学生を交えたクロージングディスカッションなどが実施されました。



※TRACE = Tamkang and Ritsumeikan University Academic Conference and Exchange

Design Factoryが企業と連携し、夢広がる理想の住宅を設計 ～笑顔があふれ、家族がつながる家を～



理工学部建築都市デザイン学科の学生が中心に活動しているサークル団体Design Factoryが設計に携わった、4棟のコンセプト住宅(草津市青地「志津の郷」内)が完成しました。本取り組みは、株式会社タナカヤから、建売販売する住宅に「従来の型にはまらない、学生ならではの新しい発想と目線」を取り入れたいという相談を受け、Design Factoryが設計を行ないました。自分たちが描く理想像を、プロの設計士の指導のもと、安全性の担保、建築基準のクリア、コストバランスなどを意識しながら、実際の設計図に落とし込んでいく過程を、実践的に学びました。住宅は、7月13日(土)から一般販売されています。

山鉾巡行をバーチャル体験! 「祇園祭デジタル・ミュージアム展」 を朱雀キャンパスで開催

7月13日(土)から18日(木)にかけて、祇園祭を文化財としてデジタル保存し、最先端の仮想現実技術で再現した研究成果を一般公開する企画展「祇園祭デジタル・ミュージアム展」を開催しました。研究は、情報理工学部と文学部の教員・学生が中心となり、2010年から文部科学省の事業の一



環として行ないました。船鉾保存会と連携し、実際の山鉾巡行に行き、お囃子の記録、山鉾の構造や懸装品の調査、巡行する山鉾の振動調査などを行ない、約3年かけてデジタル技術による再現・保存を行ないました。今回の企画展では、巡行する鉾に乗ったり、船鉾の懸装品に触るなど、通常はできない体験を、バーチャル技術を通じて体験することができる11作品が展示されました。

「2013年度立命館大学アスリート・クリエイター育成奨学金」 証書授与式を開催

7月11日(木)、衣笠キャンパスおよびこ・くさつキャンパス(BKC)にて、「立命館大学アスリート・クリエイター育成奨学金」証書授与式を開催しました。



立命館大学アスリート・クリエイター育成奨学金」は、2012年度に設立された成長支援型奨学金の一つで、スポーツ、文化・芸術、研究分野において顕著な実績を収め、今後、世界や日本のトップとなることが期待できる学生を育成することを目的としています。学生からの申請に基づき、これまでの実績、目標の明確性、目標実現のための活動計画の具体性および実現可能性をポイントとして、書類・面接で選考を行ない、「A奨学金」で30名の採用を決定しました。採用された学生たちが、目標を達成し、更なる成長を遂げることが期待されます。

映像学部の「映画制作論」受講生が 嵐電を舞台にしたオムニバス映画 『嵐電の町、ひと模様』を制作

8月2日(金)、3日(土)の両日、MOVIX京都において、映像学部特殊講義「映画制作論」の成果作品『嵐電の町、ひと模様』(『ぎぶ あんど ていく』『オーブラザー』『ろくでなしに送る歌』3作品のオムニバス映画)の上映会が開催されました。会場は、同学部

の学生、友人、父母、校友等々多くの鑑賞者が集い、連日満席となりました。今回、上映された作品は、2011年に同学部客員教授に就任した映画監督の中島貞夫氏の指導のもと、受講生たちが講義で得た知識と経験を生かし、テーマ設定、調査、シナリオ制作、キャスティング、撮影等、全ての制作過程において主体的に取り組み完成させたものです。受講生たちが社会に対して感じている率直な思いが、学生らしく表現されており、訪れた多くの鑑賞者の共感と呼んでいました(右ページをご参照ください)。



謝辞を述べる総合プロデューサーの織田さん

大学院生のための新しい 研究環境創造ワークショップを開催

7月26日(金)、7月31日(水)、8月6日(火)の3日間、大学院生のための新しい研究環境創造ワークショップを開催しました。本ワークショップは、人文社系大学院生のこれからの研究スタイルやそれに必要な研究環境モデルを考えることを目的としたワークショップです。これからの大学院生には、どんな研究環境が必要か、大学院生のための新しい研究環境を院生自らに創造・提案してもらう場として開催されました。1回目は現在の共同研究室に感じていることや、今後の要望等について自由に意見を出し合い、2回目は同志社大学のラーニング・commons等の施設を視察。3回目はキャンパスや研究科、生活スタイル等によって同じ大学院生でも一日の時間や研究室の使い方に様々な差異があることを共有し、意見交換を行ないました。



映画制作を通じて学んだ 「プロフェッショナル」

織田昌弘 さん(映像学部5回生): 右
総合プロデューサー

佐々木 進 さん(映像学部4回生): 左
『ろくでなしに送る歌』監督

『嵐電の町、ひと模様』。京都で100年以上の歴史をもつ嵐電(京福電鉄)を軸に、「人のつながり」をテーマに展開される3つの物語をまとめたオムニバス映画である。この映画は、2011年度からスタートした映像学部特殊講義「映画制作論」において、現代劇・時代劇を問わず多種多様な作品を世に送り出してきた中島貞夫監督の指導のもと、学生の手で制作された作品である。織田昌弘さんは2011年度と2012年度の2年間、総合プロデューサーとして、佐々木進さんは『ろくでなしに送る歌』の監督として、作品づくりに関わってきた。

織田さんは、映画制作のために必要な準備作業の習得やプロジェクトを実行できる人間性の育成を目的とした同講義に魅力を感じ、受講を決めた。全体のスケジュール管理、撮影場所の手配、俳優のオーディション、予算管理に至るまで、プロデューサーとしてやらなければならないことの多さと、少しのミスも許されない緊張感に押し潰されそうな時期もあった。こうした状況下、制作補助を担当した田口稔さんに毎日のように付きっきりで指導をしてもらうなかで、強く印象に残っているのは「プロデューサーにとって、人とのつながりが財産であり、武器である」という言葉だった。「メールを送った後に必ず電話も入れておく」「撮影の下見が終わったら必ずお礼の電話を入れる」。多くの人が関わって一つのものを創り上げる映画だからこそ



ろくでなしに送る歌



オーブラザー



ぎぶ あんど ていく

そ、こうした小さな積み重ねが築き上げる「人とのつながり」が、連帯感や目的意識の共有につながり、質の高い作品を生み出す土台となっている。「社会人として生きていくためにも必要なことを指導していただいたことが大きな財産になりました」と織田さんは語ってくれた。

一方、佐々木さんは、『ろくでなしに送る歌』の監督として、映画制作の全てのプロセスに関わってきた。監督は撮影時に俳優への演技指導を行なう。そこで試されるのが、どれだけ丁寧に取材を行ない、作品を深く練り上げ、登場人物の設定など、スクリーンには映らない部分を細部にわたって緻密に組み上げているかである。脚本を書く過程で、中島監督から「取材が足りていない」「登場人物をつくり込んでいない」といった厳しい指摘が飛ぶことが何度もあった。その時感じたのは、脚本を書いている自分よりも中島監督の方が作品について深く考えていたということ。着物に不慣れで動きが硬い俳優に中島監督が舞妓の歩き方の演技指導をしたことがあった。演技指導で中島監督が見せた所作は美しく、舞妓が歩いている姿が見えたようだったという。佐々木さんは「登場人物の設定を深めていけばいくほど、撮影の時に登場人物の話し方、しぐさ、反応が自然と見えてくることが実感できました」と中島監督の指導から掴んだものを話してくれた。

8月2日(金)、3日(土)の二日間、京都で開催された上映会では、会場が連日満員になるほどの盛況であった。織田さんは「今回は映像学部の看板を背負って制作に臨みました。映像学部の認知度を高めるためにも、ぜひ10月に東京で開催される上映会にもたくさんの校友の皆さんにお越しいただきたいと思っています」と次回の上映会への意気込みを語ってくれた。

『嵐電の町、ひと模様』東京上映会のご案内
日時: 10月11日(金)、12日(土)
場所: MOVIX亀有
開演: 19時20分(受付開始18時30分)
問い合わせ先: 立命館大学映像学部事務局
Tel: 075-465-1990

校友消息 (判明分)

叙勲2013年春

■瑞宝小綬章

植野和男氏('51法)

元国鉄大阪鉄道管理局梅田駅長

日高正行氏('63法)

元名古屋市収入役

就任(内定含む)

仲川げん氏('98経済)

奈良市長

7月21日再選

寺島憲造氏('72理工)

東洋電機製造(株)代表取締役社長

8月27日就任

訃報

巻野 力氏('48経済)

立命館大学校友会顧問

学校法人立命館元評議員

1月4日ご逝去。87歳

西村清次氏('49旧大2文)

立命館大学校友会名誉校友

学校法人立命館元理事長

8月1日ご逝去。99歳

中山壽夫氏

本学名誉教授

8月3日ご逝去。83歳

BOOKS

校友会へご惠贈くださいました本の中から紹介させていただいております。

◆石井龍生氏('61法) 著

『不思議な夢・話』

青山ライフ出版＊1000円＋税

◆川口啓子氏('95院社会博前) 著

『職場づくりと民主主義』

文理閣＊1600円＋税

◆小原輝三氏('70文)

鈴木 元氏('69経済) 著

『立命館 大学紛争の五カ月』

文理閣＊1800円＋税

◆鎮 勝也氏('91産社) 著

『花園が燃えた日』

高校ラグビー北野vs.伏見工』

論創社＊1600円＋税

◆杉原達矢氏('66文) 著

『トンネル掘り』

弘報印刷(株)

自費出版センター＊1200円＋税

◆南家久光氏('79法) 著

『文色』

東京印刷(株)＊1905円＋税

◆花岡正樹氏('04国関) 著

『1000%大学活用術』

中公新書ラクレ＊840円＋税

◆藤原和正氏('67経済) 著

『月から太陽への旅』

株式会社鳴美＊1400円＋税

◆山田和史氏('01国関) 著

『スパ抜ける技術』

サンマーク出版＊1300円＋税

今夏、夏の異常な暑さが、想像もつかない事故を起こすのだろうか。ゲリラ豪雨や土砂くずれなど異常気象による災害が今年は多発したが、ちょっとした不注意から起こってしまった福知山花火大会での爆発事故は、人間の行動にまで影響を与えるのかと思えるような事故だった。

福知山市は友人の夫の郷里で、お盆には毎年帰省して花火大会を見に行くという。72回を数える伝統ある花火大会で、今年も多くの夜店が出て賑わっているなか、彼女たち家族は家を出るのが少し遅れてしまつて事故現場まで行けなかったために事故を免れたようだ。

大きな自然災害の前でいつも人間の無力さに悔しい思いをする。せめて、気をつけられることは十分に注意して、防げる事故は起こしてはいけないと深く心に刻んだ。(M.K.)

新聞記者として、滋賀県守山市などを担当している。その関係からか、立命館守山中学校の生徒たちの壁新聞作りのお手伝いをするようになった。

まずは7月上旬、「新聞づくりへの情熱」をテーマに講演。情熱と言われると面はゆいが、記事を書くためのネタ探しや、どういった所に注目して文章を書くのかということを中心に話をさせてもらった。

講演後、中学生から質問された「どんな時にやり甲斐を感じるのか」という問いにはとさせられた。「色々な問題点を指摘した時などに、記事がきっかけになった改善が図られた時」と答えたが、ある意味久しぶりに仕事の動機を見直すきっかけになったと感じる。今後、どのような中学生たちがどのような手作り新聞を書いていくのか、楽しみにしている。(人見勅輔)

南草津駅からシャトルバスに乗って10分でBK Cに到着。8月3、4日の2日間、『OPEN CAMPUS 2013』が開催され、その1日目に高1の息子と参加した。猛暑の中、キャンパスでは赤い「+R」のTシャツを着た学生スタッフが迎えてくれた。

スポーツ健康科学部の塩澤准教授による模擬授業では、最新の運動計測機器を使って自分の動きを科学的に見る体験に挑戦した。情報理工学部のエリアでは、学生が運営するプロジェクト団体によるコーナーが設けられ、ゲーム体験をすることができた。

「大学のグローバル化の遅れは危機的状況」などの指摘もあり、国を挙げて大学改革が検討されているが、立命館では既に国の施策を先取りする取り組みを進めており、その先進性には目を見張る。ところで、息子は大学への興味を高めてくれただろうか…。(あ)

久しぶりに京都観光に行った今年、初めて四つ葉のタクシーに乗った。

学生時代から見かけることはあっても、乗れたことがなかったと喜ぶ私に、「大学はどちらですか?」と運転手さん。「立命館です」と答えたら、突然運転手さんが『グレーター立命』を歌い出した。聞くと、その方の友人が立命館出身だという。それだけでも驚いたのに、タクシーを降りた京都駅の駅前広場では、今度は吹奏楽の演奏とともにグレーター立命が流れてきた。

大学スポーツを追っていた学生時代、何度も聴いたグレーター立命に、今また元気付けられた。そういえばここ数年、大学スポーツを観に行けていない。今年は当時の部のメンバーと観に行こうかな。四つ葉のタクシーが、思わぬきっかけをくれた。(pow)

「明光出版」からのハガキにご注意ください

立命館大学を含む全国の大学の卒業生を対象に、『●●大学(●学部) 職業分野別名鑑』と冠して名簿の作成を案内し、購入を呼びかけるハガキが、「明光出版」を名乗る企業より届いているという情報が寄せられています。

現在、立命館大学、立命館大学校友会では名簿の作成はしておらず、「明光出版」とは一切関係がございません。

くれぐれもご注意くださいますようお願いいたします。

古本を活用した新たな支援のかたちが始まりました

BOOKS FOR BOOKS
～立命館の本活～

<http://www.books-for-books.jp/>



あなたの読み終えた本が、学生・生徒・児童のための新しい本に生まれ変わります。

あなたの本を活かします

BOOKS FOR BOOKS ～立命館の本活～とは?

卒業生や保護者、教職員や在学生・在校生の方々から、読み終えた書籍(CD・DVD等を含む)をお送りいただき、それらを社会へ還元させるとともに、本学の図書充実に役立てる活動です。

どのような仕組みですか?

集荷や査定を提携企業(株式会社バリューブックス)に委託し、その買取額(全額)が本学への寄付金となります。

手続きの方法は?

- ①書籍を段ボール箱に入れる。
- ②電話(バリューブックス 0120-826-292)かWEBで集荷を依頼する。

※電話の場合は本号に同封の申込書を段ボールに入れてください ※5冊以上であれば送料は無料です

詳しくは **WEB** をご覧ください。

立命館の本活

検索

お問合せ先

総務部 寄付事務局

TEL 075-813-8110 (平日 9:00 ～ 17:30)

E-mail rgiving@st.ritsumei.ac.jp

お申込みに際してのご注意

買取額は市場価格等を考慮して(株)バリューブックスにて査定されます。買取額は需要と供給によって決まるため、ご自身が大切にされている本であっても、残念ながら低額となることや値段がつかないこともございます。お申込みいただくに際しては、その点をご理解くださいますようお願い申し上げます。



立命館大学国際平和ミュージアム企画展のご案内

特別展

世界報道写真展2013

世界報道写真財団(本部：オランダ)が毎年開催するコンテスト入賞作品約160点を展示。オランダ・アムステルダムを皮切りに約100の会場で開催される世界規模の写真展です。



「世界報道写真大賞」
ポール・ハンセン
(スウェーデン/2012)
ダーゲンス・ニューヘル紙

BKC、APUでも開催します。

2013年度秋季特別展

目・耳・WAR－総動員体制と戦意高揚

当館所蔵資料を中心に、ポスターやチラシ、軍歌や歌謡曲を収録したSPレコード、子どもの玩具等を紹介し、総動員体制下における視覚・聴覚をはじめとした「感性の総動員体制」に関する展示を開催します。



全国ラヂオ体操の会ポスター
立命館大学国際平和ミュージアム大塚コレクション

会期

特別展

世界報道写真展2013－WORLD PRESS PHOTO 2013－
開催中～10月13日(日)
※10月15日(火)～31日(木)BKC、11月3日(日・祝)～17日(日)APUで開催

2013年度秋季特別展

目・耳・WAR－総動員体制と戦意高揚
10月23日(水)～12月15日(日)

第81回ミニ企画展示

「平和をつむいで20年」
開催中～10月6日(日)

第82回ミニ企画展示

「第7回立命館附属校一平和教育実践展示」
10月13日(日)～12月20日(金)

開館時間

午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

休館日

月曜日(ただし9/16・23、10/14、12/23は開館。9/17・24、10/15、12/24は休館)

観覧料

一般400円(350円)／中・高生300円(250円)／小学生200円(150円)

()は20名以上の団体料金／障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料

※特別展「世界報道写真展2013」期間中は、大人の一般観覧料が500円になります(団体料金適用はありません)。

常設展示(地階・2階)は、左記展示期間以外でも見学することができます。

立命館CLUB

立命館の「いま」がて届く!!

立命館大学のメールマガジン。私たちの活動をぜひ知ってください。
ご入会お待ちしております!! 詳しくは、Webへ

立命館CLUB

検索

WEB

www.ritsumei.ac.jp/rcclub/



立命館大学国際平和ミュージアム
特別展・常設展
校友招待券
有効期間
2013年12月25日(水)まで
(校友名簿・館蔵料)
校友会費1つめい No.254



りつめい No.254／2013年10月号

発行所／立命館大学校友会／年4回発行

発行人／村上健治

編集人／中村和歳

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

Tel. 075 (813) 8216 Fax. 075 (813) 8217

URL : <http://alumni.ritsumeijp>

E-mail : alumni@st.ritsumeijp